

国立大学法人九州工業大学学長の業務執行状況の確認結果について

令和 2 年 1 月 1 6 日
国立大学法人九州工業大学
学 長 選 考 会 議

国立大学法人九州工業大学学長選考会議規程第 3 条第 4 号に規定する学長の業務執行状況について確認を行いましたので、その結果を公表します。

1. 確認の経過

(1) 令和元年度第 1 回学長選考会議（令和元年 6 月 19 日開催）において、学長の業務執行状況確認の実施時期、対象期間、実施方法等を定めた「国立大学法人九州工業大学学長の業務執行状況の確認について申し合わせ（平成 28 年 11 月 17 日学長選考会議決定）を確認した。

(2) 令和元年度第 2 回経営協議会（令和元年 11 月 18 日開催）において、次の資料に基づき学長から平成 30 年 4 月からこれまでの取組みについて、報告があり、質疑応答が行われた。**（資料 1, 2）**

・「第 3 期の業務状況に係る報告」

経営協議会終了後に、令和元年度第 4 回学長選考会議を開催し、次の参考資料を参照の上、業務執行状況の確認方法とスケジュールについて確認が行われ、後日、学長選考会議委員及び監事からの意見を事務局に提出することとした。

（資料 3）

参考資料

1. 平成 30 年度に係る業務の実績に関する評価結果
2. 平成 30 事業年度に係る業務の実績に関する報告書
3. 監事監査報告書
4. 所信表明書

(3) 令和元年度第 5 回学長選考会議（令和 2 年 1 月 16 日開催）において、平成 30 年度中における学長の業務執行状況について、最終的な確認を行った。

2. 確認結果

学長選考会議は、学長の業務執行状況は適正であることを確認した。

学長のリーダーシップの下、教育・研究・社会貢献・管理運営においてバランスの取れた運営を実行し、グローバル化への積極的な対応として海外派遣学生数の増加など成果をあげている。大学のプレゼンスを高め、さらなる教育研究の質の向上に取り組まれることを期待する。

第3期の業務状況に係る報告について

令和元年度 第2回 経営協議会
日時：令和元年11月18日(月)

令和元年11月18日(月)に開催された第2回経営協議会の〔その他〕の
“(1) 第3期の業務状況に係る報告について”の中で、学長から平成30年4月
以降の取組みについて、報告があり、引き続き意見交換が行われた。

(※) 配付資料は別添 資料2のとおり)

令和元年度 第2回 国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨(抜粋)
(日時：令和元年11月18日(月) 13:00~14:50)

その他

(1) 第3期の業務状況に係る報告について

(机上配付)

学長から、第3期の業務に係る本学の取組状況について、下記のとおり報告があった。

【教育】

P3~4 : 教育の国際化として、GCE教育に取り組んでおり、複合的な教育環境を学内外に整備してきた。特に、平成30年度の海外派遣学生は697名であり、全国立大学中において、昨年の5位から3位という高い海外派遣学生率となっている。

P5~6 : 志願倍率並びに偏差値の推移は、18歳人口減少の中、年々上昇傾向にある。志願倍率については、2018年度と2019年度を比較しても上昇している。直近の推薦入試Iの倍率も、昨年の3.1倍から3.71倍に上昇しており、受験生から高い評価を得ている。

出身県別の入学者については、福岡県外からの入学者が56%となっており、関西・東海地方からの志願者も増加している。

P7~10 : 就職状況については、良好な状況を堅持している。大学院生に限ると、東証1部上場企業への就職率は、全体の61.1%となっている。

多様なキャリア支援として、特に学内での合同企業説明会については、700社を超える企業が参加している。今年度は、現時点で昨年を超える750社超の申込状況であり、開催日程も1日増やし、3日間とする予定である。今後は、企業と学生双方の満足度を高めていきたいと思ってお

り、引き続き推進していく。

正課外活動の学習活動にも注力しており、最大200万円の支援を行っている。安川電機様からご支援をいただいております。ロボカップにおいて連覇を果たすなど成果を出している。また、この活動に共感いただき、2018年度は千鳥屋本家様、さらに2019年度からは、Q T net様、佐電工様からご支援いただけるようになり、少しずつ産業界の方々が、学生の取組みに関心を持っていただけるようになってきた。

学修成果の可視化コンソーシアムについては、12校4社に参加いただいております。産業界と意見交換しながら、学生の学修成果の可視化に努めていきたい。

【研究】

P12～P14： 研究活動支援として、組織的な連携を推進するために、共同研究講座の設置や海外の大学・研究機関と組織的・持続的に共同研究を行う取組みを行っている。

教員の学外連携への支援については、卒業生との連携支援や国際共同研究指導制度などに取り組んでいる。

研究組織戦略としては、大学として特徴的な研究を推進するために、戦略的研究ユニット・重点プロジェクト研究センター・戦略的重点プロジェクト研究センターを設置している。

共同研究講座については、現在11件あり、今年度で既に3件増加した。国際連携においては、プトラ大学と2件、台湾科技大学と5件の国際共同研究を支援し、今年度新たに、ペトロナス工科大学との2件を支援している。国内では、情報通信研究機構と5件の組織的な共同研究支援を開始した。

P15： 共同研究額については、2013年度の2億円程度から、2018年度7億円に増加し、企業からの信頼を得てきている。

P16： 国際ネットワークの形成については、海外拠点としてマレーシアプトラ大学のほかに、キングモット工科大学北バンコク校内に、新たに2つ目のサテライトオフィスを設置し、新規拠点の活用や連携強化を推進している。

論文の国際共著率については、世界平均の国際共著論文率が約23%のところ、本学では35%を超えてきており、研究の国際化が進んでいる。

P17： 産学連携の発展では、キャンパスの中で未来を感じるような研究活動を実施する第1弾として、無人店舗を戸畑キャンパス内に設置し、第2弾として、ローカル5G実証試験も検討している。

【社会連携】

P19： 地域企業との取組みとして、学術指導制度を設け、技術相談件数は2016年の80件から、2018年は152件に増加した。

自治体等との連携において、北九州市とは、産学官懇談会に参加し、市内大学関係者及び北九州商工会議所との意見交換を行った。また、北九州市活性化協議会に参加し、北九州地域産業人材育成フォーラムと連携し、インターンシップを受け入れるなど、多様な活動が活発に行われている。飯塚市とは、ふるさと納税制度において大学応援メニューを追加していただいた。

また、クラウドファンディングを開始し、多くの寄附もいただいている。

P20： 特に北九州市との関係では、地域大学・地域産業創生交付金事業が始まり、北九州市、FAIS、安川電機とロボットの研究開発・人材育成に取り組んでおり、今後の成果に期待している。

P21： 社会に広く本学の活動を知ってもらうために、東京において、110周年記念フォーラムを開催し、産業界、卒業生など250名を超える参加者があった。

P22～P24： 本学の教育研究活動の価値を広く理解してもらうために、定期的に「学長記者懇談会」を開催しており、新聞・マスメディアに取り上げられる機会は、2016年度の250件から、2018年度は、400件超に増加している。

異業種連携として、博多大丸でのコラボイベントを2度開催し、今後も継続して開催していく方向で検討している。

RKB毎日放送と連携協定を締結し、RKBの制作番組において、本学の活動が複数回取り上げられた。

広報資料として、研究内容をわかりやすく紹介する『KYUTECH LAB』（WEB・冊子・パネル）を作成した。

【管理運営】

P26～27： 経営改革の進捗では、様々な改革を行い、組織力を向上したいと考え、迅速な意思決定を可能にする仕組みとして、学長企画室を新設した。

戦略的な教員人事を推進し、教員の部局間異動を実施している。

また、事務職員による人事制度改革マラソンを開始した。

新年俸制等、人事給与マネジメント改革の検討を開始し、技術職員の処遇改善にも取り組んできている。

教員の満足度調査を行うとともに、その結果から具体的な意見・課題を得るため、フェイストゥフェイスでの対話を約3分の1の教員と3キャン

パスで実施した。対話で得られた意見・課題を総括し、今後の取組みを検討予定である。

P28： 人事制度改革マラソンでは、事務職員の満足度調査から得た課題を元に、全ての構成員が「安心と誇り」をもって働ける職場の実現に向けて、職員有志によるワークショップを開催し、その検討結果を踏まえ、施策を具体化している。

P29： 平成28年4月に男女共同参画推進室を新設し、平成29年2月には、在宅勤務制度を導入し、女性限定公募も行っている。

男女共同参画推進に向けた取組みとして、女性の教員比率の向上については、既に設定したKPIを上回っている。在宅勤務制度については、男性教員も含む利用者9名という実績は、全国立大学中で最多の利用者数である。

P30～32： 学外からの評価については、2年連続で環境大臣賞を受賞した。また、外務大臣賞も受賞している。

教育現場からの評価としては、例えば、全国国立大学ランキングにおいて、面倒見が良い大学で2位の評価などをいただいている。九州地区国立大学ランキングにおいて、グローバル教育に力を入れている大学として、前年度の圏外から2位に躍進しており、本学の活動が社会に認知されてきている。

有名企業400社への就職実績においては、全国8位：西日本1位であり、企業から評価されていると感じている。

世界大学ランキングにおいては、アジアの大学が伸びてきておりQSではランクが下がっているが、国内でのランクは少しずつ上がっている。分野別ランキングでのEngineering and Technology分野においては、日本の大学で昨年の17位から15位に上がった。

以上のとおり、教育・研究・社会連携・管理運営に取り組んできたところであり、さらに基盤を確実にするために、教育研究の質を高めていきたい。

引き続き、下記のとおり各委員と意見交換があった。

(○：学外委員， 監事 △：学長)

○： 教育・研究・社会連携・管理運営について、十分に推進しているが、今時点の中期計画の達成具合はどの程度か。また、教員の不祥事への再発防止にむけてどう取り組むのか。

△： 今時点の中期計画の達成具合は、6年の期間のうち、4年目にあたるが、高い目標値もあるものの、年次進行としては達成してきている。残りの2年間で、

引き続き強く推進していきたい。

全学における教員への不祥事の再発防止に向けて、外部の有識者の協力を得ながら、研修など改善を行う。さらに、学長対話で得た課題についても、改善に取り組んでいく。

- ： 18歳人口の減少など厳しい環境の中、右肩上がりのデータの数値は素晴らしい。ただ、今の数値は、数年前からの取組みの成果の賜物であり、今後、継続的に向上させるためには、引き続き努力が必要と思う。

また、ES（従業員満足度）が課題であり、コミュニケーションの改革等は難しいが、高めるための取組みを行ってほしい。

KPIの設定や大学マネジメントのスパイラルも良く、特に、博多大丸やRKB毎日放送との広報活動は、効果的・理想的であるが、放映にあたり料金は発生しているのか。

- △： 今後、数値をさらに向上させるために、もう一段の工夫が必要だと考えている。これまでやっていなかったような取組みも考える必要があり、第4期につなげるために、残り2年間で実施を検討したい。

また、ES（従業員満足度）を高めていきたいと思っており、事務職員においては、人事制度改革を推進している。教員においては、成長が実感できるような大学であると共感されるように取り組んでいきたい。

RKB毎日放送における番組放送においては、連携協定に基づき放送されたため、料金は発生していない。

- ： 博士後期課程の進学状況はどうか。また、社会人に対するリカレント教育などの取組みはどうか。

- △： 博士後期課程の進学の希望者が多く、今年度に工学府の定員を増やしたが、更なる入学希望があり、良好な状況である。

社会人に対するリカレント教育については、まだ対応ができていない課題の一つである。今後、地域の企業の方に来てもらえるような地域の企業のニーズに対応したりリカレント教育を構築したいと考えている。

- ： 男女共同参画推進における在宅勤務制度はどういった取組みか。また、課題等があればお教えいただきたい。

- △： 在宅勤務制度は、教育職員を対象としており、導入した背景としては、女性研究者の環境改善のためであり、特に、ライフイベントにある教育職員を想定して開始した。実施する中で、男性の教育職員も対象に広げたり、育児の対象者年齢も引き上げたり、介護に関する要望等も取り入れて改善している。

課題としては、現在の教育職員限定から、今後、事務職員への拡大に向けて、環境整備やどのような仕組みがよいのかが検討課題である。

- ： 全国国立大学ランキングにおいて、面倒見が良い大学として、2位となっているが、どのような取組みが評価されたと考えているか。

また、未来思考キャンパスにおいて、ローカル5G実証試験を検討中とのこ

とだが、進展具合はどうか。

△： 特別に取り組んでいることはないが、大学の文化として、教員が学生と寄り添う時間が多いということがあげられるのではないかと思う。全体的に、事務職員・技術職員・教育職員が学生に寄り添っている印象を持っている。

ローカル5G実証試験については、総務省への申請や北九州市との協議が必要であり、今から検討する段階であるが、自由な研究ができるような環境にしたいと考えている。

○： 女性限定公募があるが、どのようなやり方で限定しているのか。

△： 女性限定公募については、全学で設定されたKPIを達成するために各部局において実施した。現在、KPIは達成しているため、より多くの女性教員の獲得を目指す場合には、協議して決定することとなる。

○： うまく取組みがいかない場合のモチベーションを保つ仕組みは何かあるか。数値が複数年の推移で表されているが、KPIに対する将来予測もあればもっとよいのではないか。また、良い数字だけでなく、悪くなった数字の推移も資料にあると改善の提案ができるのではないかと思う。

△： モチベーションの維持については、難しい課題だと認識している。企業においては、利益を投資して拡大再生産することで良いスパイラルになるが、大学の場合は、良い教育研究をしても、予算は増えないため、大学がさらによくなる仕組みがないことに苦労している。

悪い数値というのは、言い換えれば改善できる余地がある点であり、例えば、研究において、国際共著論文数などは向上してきているが、一人当たりの論文生産性については改善が必要と考えている。

○： 北九州市においても、ふるさと納税を活用して大学を応援することについて、来年度の実施に向けて検討を進めている。

地域大学・地域産業創生交付金事業については、唯一無二の事業であるが、大学からの意見等があればお教えいただきたい。

また、ローカル5Gの展開に関して、地方自治体としても検討しておくべき課題があれば教えていただきたい。

△： 運営費交付金は減少している中、ふるさと納税について検討いただき、大変ありがたい。

地域大学・地域産業創生交付金事業については、10年のうち5年間だけ補助金があり、残りの5年間分の費用が問題であるため、今後ご協力をお願いしたい。

ローカル5Gについても、今後、相談させていただきたい。



第3期の業務状況に係る報告

未来を思考する「モノづくり」と「ひとづくり」

2019年11月18日
国立大学法人九州工業大学

- I. 教育
- II. 研究
- III. 社会連携
- IV. 管理運営

GCE : Global Competency for Engineer

グローバル化が加速する社会で活躍する技術者（グローバルエンジニア）に**必要な能力（要素）をGCEと定めて、それらを育成するための様々な取り組みを実施しています。**

Competency

GCEの定義とそれらを涵養するための方策を策定



Circuit Program

GCEを獲得するための教育プログラム（Circuit Program）の開発及びそれらを効果的に実施するための制度設計

- **6年一貫**教育プログラム（グローバル・エンジニア養成コース）
- **クォーター制**の導入
- 海外派遣プログラムの拡充
Study Abroad
Work Abroad
Research Abroad

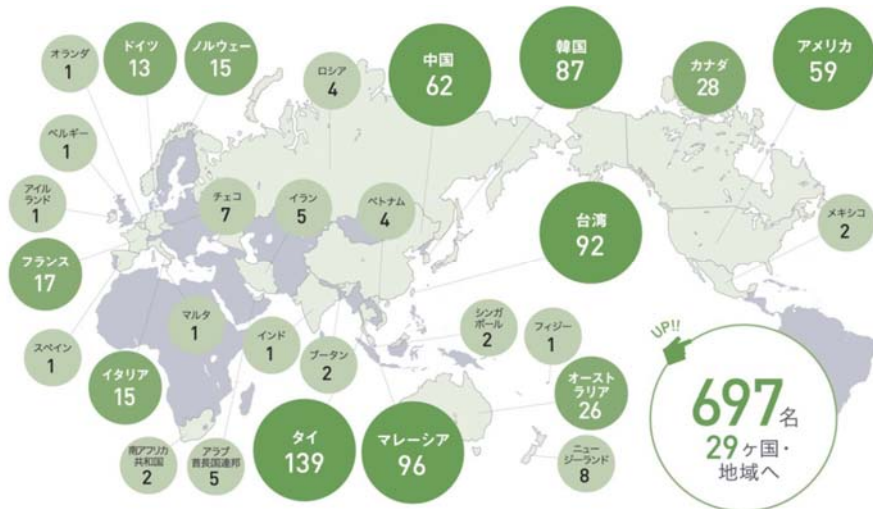
Learning Complex

GCE教育を効果的に行うための複合的学習環境をキャンパスの中（X on Campus）とともに学外（Campus on X）にも整備



グローバル人材の育成

グローバル・コンピテンシー涵養のため**多様な海外派遣を推進**



海外派遣者数の推移



「国立大学における教育の国際化の更なる推進について」第6回フォローアップ調査より

◆2017年度日本人留学生の外国留学者比率（学部+大学院）**3位 九州工業大学**

2019 新設！

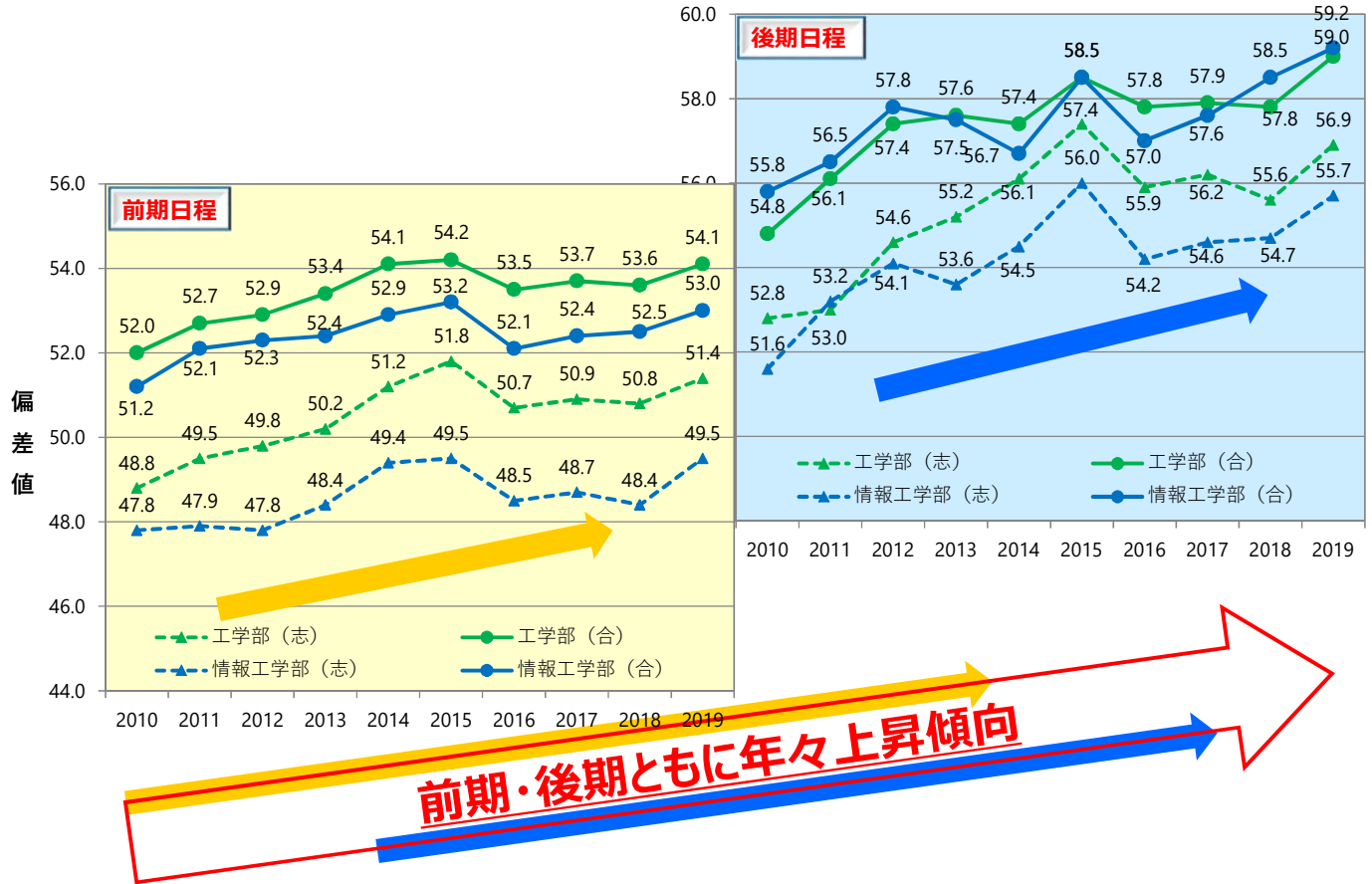
英語だけで修了できるコース

部局	コース名
工学府	宇宙工学国際コース
工学府	マテリアル工学コース
情報工学府	LSI and Applied Computing コース
生命体工学研究科	AAR(Advanced Assistive Robotics)コース
生命体工学研究科	Global Green Energy and Electronics コース

Global Green Energy and Electronics (G2E2) Course

留学生と日本人学生が共修する環境を提供し、現代社会が抱えている環境・エネルギー問題に着目したグリーンでクリーンな持続可能な社会を構築するための教育研究を行い、諸外国と連携したグローバルリーダーとなり得る人材教育を行います。環境やエネルギーの問題に関する先端的なグリーンエレクトロニクス分野の教育を行うことで、国境を越えた持続可能な目標（SDGs）に沿ってすべての人が平和と豊かさを楽しむことができるようにすることを教育目的としています。

■ センター試験偏差値の推移 (5教科7科目・理系)

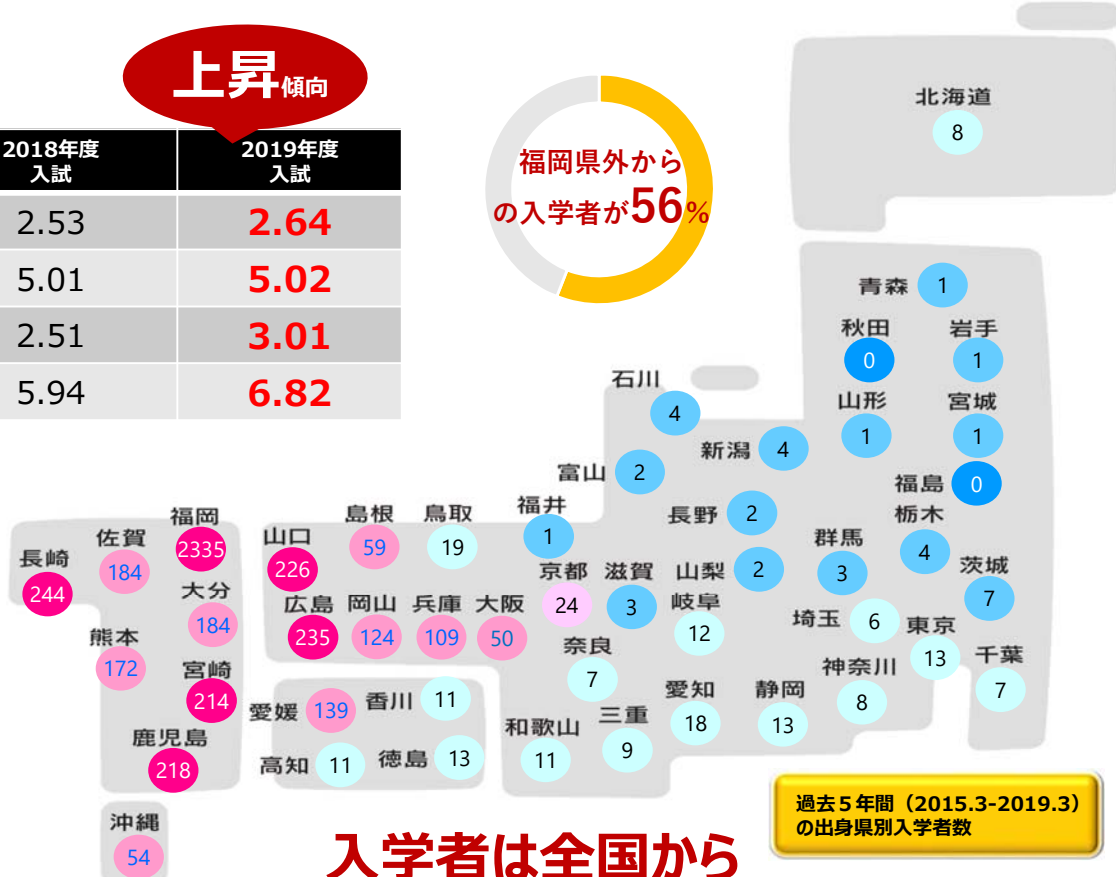


志願倍率

上昇傾向

学部	入試区分	2018年度入試	2019年度入試
工学部	前期	2.53	2.64
	後期	5.01	5.02
情報工学部	前期	2.51	3.01
	後期	5.94	6.82

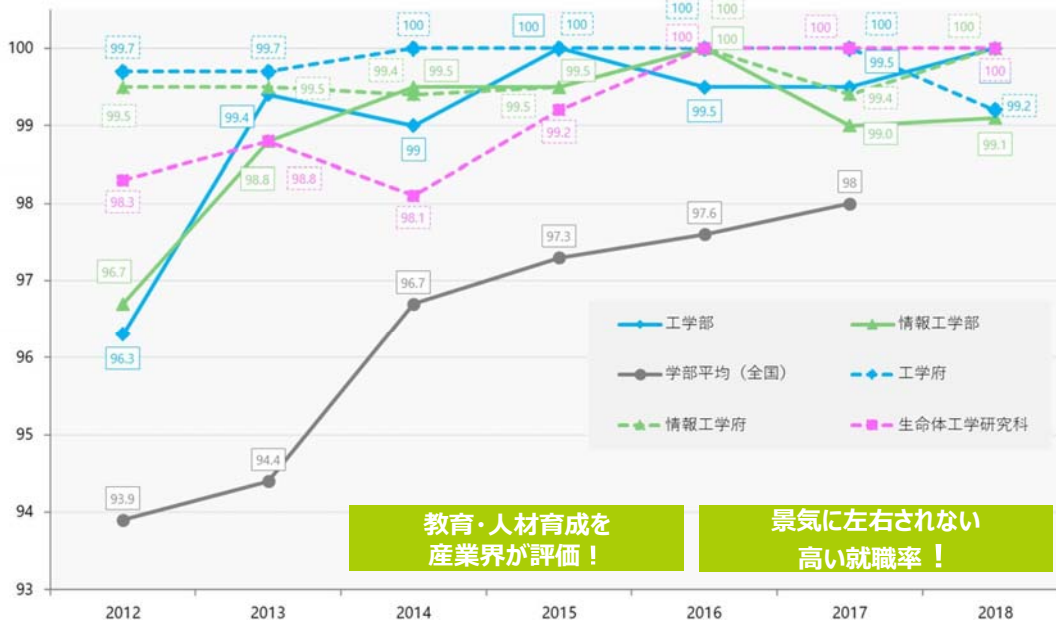
福岡県外からの入学者が56%



過去5年間 (2015.3-2019.3) の出身県別入学者数

入学者は全国から
関西・東海地方からの志願者も増加中!

学生の過去7年間の就職率の推移



教育・人材育成を
産業界が評価！

景気に左右されない
高い就職率！

学部

- (2012~2018) **就職率96%以上**で推移
- 全国平均を上回る堅調な就職率

- 就職者の **53.3%** が上場企業/公務員
(大学院生では **61.1%**) (2019.3 学部・大学院卒)
- 学部卒業生のうち、**53.3%** が大学院へ進学

大学院

- (2012~2018) **就職率98%以上**で推移
- 大学院生の就職率は高水準で推移

- 約 **70%** は、関東・東海・関西地区へ就職
- 福岡県 (九州) から、**全国に向けて** 人材を排出

過去5年間の就職先 (2015.3-2019.3学部・大学院卒業生)

順位	就職先企業	人数
1	本田技研工業 (ホンダ)	85
2	日立製作所	70
	三菱電機	70
4	三菱自動車工業	46
5	パナソニック	45
6	日本製鉄	43
7	オービック	42
8	スズキ	41
	NECソリューションイノベータ	41
10	リーゼントダクタマニファクチャリング	38
	トヨタ自動車九州	38
12	トヨタ自動車	37
	九州NSソリューションズ	37
14	川崎重工業	35
15	マツダ	33
16	富士電機	32
17	富士通	31
18	日産自動車	29
19	九州電力	28
20	キャノン	27
	京セラ	27
	村田製作所	27
23	アイシン・エイ・ダブリュ	26
	三井ハイテック	26

九工大の就職支援の特色は、

企業と信頼関係 を築いている **就職担当教授によるサポート** と、社会の **第一線で活躍する卒業生からのサポート** にあります。

就職担当教員が内定までマンツーマンでサポート



就職担当教授が学生の適性と企業のニーズを見極めてマッチングするからこそ**平均1.4社の採用選考で内定**が決まります。

明専会が就活を全面バックアップ！



全国の企業から九工大の卒業生が明専会主催の**明専塾等のキャリアセミナー**に登壇。**卒業生の活躍・サポート**こそ九工大の就職の強さの源泉です。

充実したキャリア教育



セミナーの実施、キャリア形成に関する講義、インターンシップなどを低学年次から実施。中でも**学内合同企業説明会**は700社超参加、全国屈指の規模を誇ります。

豊富な学校推薦枠と幅広い情報ネットワーク



学校推薦で応募できる企業が1人あたり5~10社程度あり、企業の評価も高く**産業界には卒業生ネットワーク**があるので自由応募でも就職に強い。

■ **2020年3月4~6日 2キャンパス同時開催予定**

(10月4日現在 申込数750社超)

<参考> 2019年3月6~7日開催時の参加企業総数 702社
(内 福岡県内 112社、北九州市内 31社) (延べ参加数 896社)



企業や社会において **先導的リーダーシップ** を発揮することのできる **創造的人材** を育成します！！

2018年度採択状況

計 **20** 団体

正課教育で学んだ知識やスキルを活用し、課外活動を通じてエンジニアリング・デザイン能力を養成する学生プロジェクトを継続して支援しており、20 団体に、総額2,200 万円にのぼる活動資金の支援を実施した結果、学生プロジェクトの一つである『Hibikino-Musashi@Home』が**世界最大の競技会『RoboCup2018』で優勝し**、大会2連覇の快挙を成し遂げるなどの顕著な成績を上げています。

創造学習プロジェクト ~200万円 (1団体あたり) 活動実績必須 各種技術系競技会への参加や地域貢献活動を目指すグループ	安川電機プロジェクト ~200万円 (1団体あたり) 活動実績不問 支援者企業の分野に基づく活動を行うグループ <small>(※安川電機様 兼QTnet 様からのご支援)</small>	夢チャレンジプロジェクト ~30万円 (1団体あたり) スタートアップ 将来的に発展が見込まれる萌芽的取組みを行うグループ
--	--	--



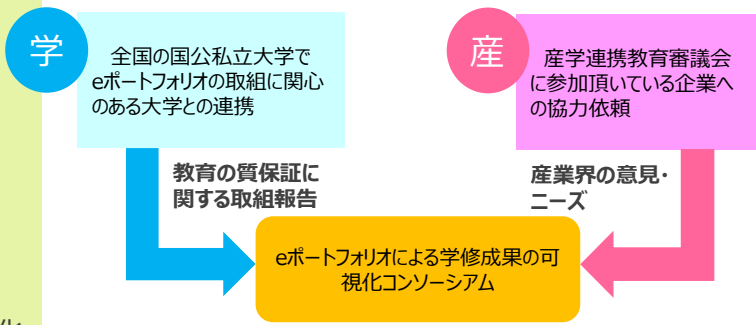
これらの学生の取り組みに企業からの共感が高まり、支援企業数が増えるとともに、支援の在り方についても従来の経済支援のみに留まらず、技術支援にまで枠組みが拡大しています。

令和元年度より2社

学修成果の可視化コンソーシアム

コンソーシアム設置目的

- 予測困難な時代の社会と世界に貢献できる学生の育成
- 学生の成長に関する情報交換や議論、意見交換、相互連携を推進・支援
- eポートフォリオの手法や技術を発展させ、学生自身による学びの振り返りを基盤とした学修成果の可視化



本コンソーシアムで実施する5つの主な事業

- eポートフォリオによる学修成果を可視化する手法や技術の発展を図る活動
- 学びの質保証に基づく学修の質の向上を図る活動
- 教育の質保証の取組等、教育改革の情報を社会に公開する活動
- シンポジウム・フォーラム等の開催
- その他目的を達成するために必要な事業

【北海道】

- 公立千歳科学技術大学
- 北海道科学大学

【中国・四国】

- 山口大学 大学教育機構 大学教育センター

【九州】

- 九州工業大学
- 長崎大学 大学教育イノベーションセンター

【関東】

- 東京工業大学 教育革新センター
- 立教大学
- 立正大学
- 東京学芸大学 ICTセンター

【中部・関西】

- 大阪府立大学 高等教育推進機構 高等教育開発センター
- 京都女子大学 eラーニング推進センター
- 帝塚山学院大学



- 【企業】
- 日本データバシフィック株式会社
 - 株式会社学びと成長しくみデザイン研究所
 - 株式会社キューブス
 - ユニコネット株式会社

参加機関 **12校・4社** (2019年10月3日現在)

I. 教育

II. 研究

III. 社会連携

IV. 管理運営

11

1. 組織的な連携推進

- ① **共同研究講座**：企業研究者を教員として受け入れ、学内に安定した**産学連携**研究の基盤を構築〔H29～〕
- ② **ジョイントプログラム**：プトラ大学、台湾科技大学及びペトロナス工科大学とのマッチングファンドによる**国際研究連携**〔H29～〕
- ③ **JICAと包括的連携協定**：開発途上地域への**国際貢献**、学術研究及び教育の発展等への寄与を推進〔H29～〕

2. 教員の学外連携支援

- ① **卒業生との連携支援**：海外の研究機関又は高専で研究者として活動する**卒業生**を支援、海外大学・高専等との連携を強化〔H28～〕
- ② **他大学との共同研究支援**：**研究施設・設備等の共同利用**を通じた新たな共同研究等を促進〔H29～〕
- ③ **国際共同研究指導制度**：海外研究者と**大学院生の研究指導**を共同で行い、研究指導体制の充実や国際共同研究等を推進〔H29～〕

3. 学内の研究活性化

- ① **重点プロジェクト研究センター支援**：全国的・国際的な**研究拠点形成**の推進〔H29～〕
- ② **戦略的研究ユニット促進**：**革新的な研究活動**を行う研究ユニット支援〔H27～（H30新規2件）〕
- ③ **特任助教雇用**：第4期(R4～)以降に本学の**中核として発展が期待**される分野の研究体制構築〔H29～〕
- ④ **博士研究員雇用**：**優れた研究チーム**等の研究推進、先導的な海外研究室との共同研究を支援〔H29拡充〕
- ⑤ **研究力強化事業**：**優れた研究者・研究プロジェクト**の更なる推進等を支援〔H29～〕
- ⑥ **教育研究支援制度**：新規採用又は昇任した教員の**教育研究環境整備**等を支援〔H29～〕

12



共同研究講座・共同研究部門 (研究推進 & 人材育成)

設置実績 : 11件 (2019.8 現在)

講座等名称	受入部局	設置期間
SUMCO共同研究講座	生命体工学研究科 (若松)	2017.7 ~ (3年間)
IoTシステム実装研究講座 (パナソニック共同研究講座)	工学研究院 (戸畑)	2017.11 ~ (3年間)
ECCウェルネス共同研究講座	情報工学研究院 (飯塚)	2018.4 ~ (3年間)
デンソー-Lean Automation共同研究講座	工学研究院 (戸畑)	2018.4 ~ (3年間)
プラントライフサイクルエンジニアリング (PLE-TAKADA) 講座	生命体工学研究科 (若松)	2018.4 ~ (3年間)
安川電機ロボット新技術開発講座	工学研究院 (戸畑)	2018.8 ~ (3年間)
SANWA Corp. グリーンマテリアル共同研究講座	工学研究院 (戸畑)	2018.10 ~ (1年6か月間)
デンソー生産準備IoT 共同研究講座	情報工学研究院 (飯塚)	2018.10 ~ (3年間)
機能性材料 共同研究部門	分子工学研究所 (戸畑)	2019.4 ~ (3年間)
新規材料分子設計 共同研究部門	分子工学研究所 (戸畑)	2019.4 ~ (3年間)
釜屋電機超高信頼性デバイス 共同研究部門	マイクロ化総合技術センター (飯塚)	2019.8 ~ (3年間)

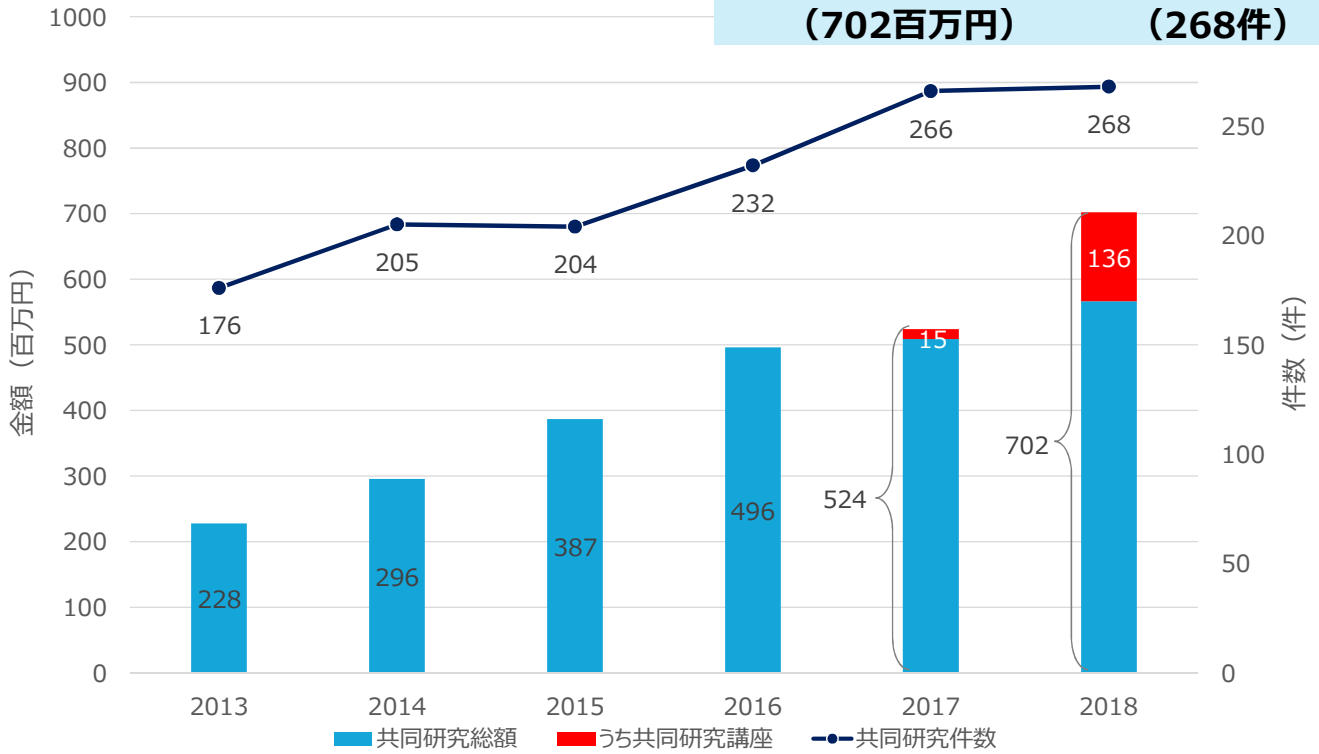
ジョイント・リサーチ・プロジェクト - 個人の繋がりを、組織の連携に -

<p>ブトラ大学</p> <p>◇ 2017年3月14日、共同研究プロジェクト推進のための「趣意書」を締結 ◇ 2017年9月よりジョイントプログラムを開始 (2019年度 3件新規)</p>	<p>ブトラ大学との共同研究支援 3件採択</p>
<p>台湾科技大学</p> <p>◇ 2017年4月12日、共同研究プロジェクト推進のための「合意書」を締結 ◇ 2017年8月よりジョイントプログラムを開始 (2019年度 2件継続、3件新規)</p>	<p>台湾科技大学との共同研究支援 5件採択</p>
<p>情報通信研究機構 (NICT)</p> <p>◇ 2018年12月1日、共同研究プロジェクト推進のための「包括的な連携協定書」を締結 ◇ 2019年4月、ジョイントプログラムテーマを審査</p>	<p>情報通信研究機構との共同研究支援 5件採択</p>
<p>ペトロナス工科大学</p> <p>◇ 2019年9月30日、共同研究プロジェクト推進のための「合意書」を締結 ◇ 2019年11月よりジョイントプログラムを開始</p>	<p>ペトロナス工科大学との共同研究支援 2件採択</p>

2019年度
New !

共同研究契約実績の推移

● 2018年度実績 前年比
金額：1.3倍 件数：1.0倍
(702百万円) (268件)



● 民間企業との共同研究に伴う研究者1人当たりの研究費受入額(2017)
第12位 (国立大学9位) ※平成29年度大学等における産学連携等実施状況

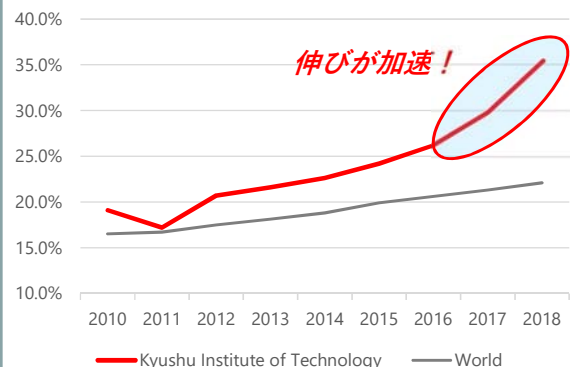
国際ネットワークの形成



No.	連携内容
①	拠点設置 (MSSC)、ダブルディグリープログラム、国際合同シンポジウム、国際連携推進合同委員会、国際共同研究及び国際共著論文、博士学生共同指導、ジョイントリサーチプログラム、卒業生との連携、産学連携プロジェクト、学生相互交流事業
②	拠点設置 (コラボレーションサテライトオフィス)、多国間合同ワークショップ、ダブルディグリープログラム、国際コンソーシアム、本学教員による講義、国際共同研究及び国際共著論文、産学連携事業、合同セミナー、卒業生との連携、学生相互交流事業
③	国際合同ワークショップ、ダブルディグリープログラム、教員相互交流、国際共同研究及び共著論文、ジョイントリサーチプログラム、学生相互交流事業、合同セミナー
④	ダブルディグリープログラム、国際共同研究及び共著論文、学生交流事業、合同セミナー、卒業生との連携、共同研究、国際共同研究室
⑤	国際共同研究合同チーム、ダブルディグリープログラム、国際共同研究及び共著論文、交換留学、エラスムス+プログラム、合同ワークショップ
⑥	共同分析実験センター設置、相互学生交流事業、交換留学、ポスドク研究員受入れ事業
⑦	国際共同研究及び共著論文、学生交流事業、合同セミナー、交換留学、卒業生との連携・共同研究、国際コンソーシアム
⑧	国際共同研究及び共著論文、卒業生との連携、国際連携事業 (超小型衛星プロジェクト)、国際協力機構 (JICA) 支援事業
⑨	合同ワークショップ、学生交流事業、合同セミナー、国際共同研究及び共著論文、教員招へい、2国間国際連携事業
⑩	多国間合同ワークショップ、国際共同研究及び共著論文、教員招へい、2国間国際共同研究事業

論文の国際共著率の推移

(Scival 2019.5.27)



未来思考キャンパス構想

学生へ

学ぶことによって、どのような未来を実現できるようになるのかを実感し、現在の自分が未来へどのような変化を与えることができるかに挑戦できるキャンパス（学習意欲の向上）

教員へ

独自技術を柔軟に活用し、社会にどのような影響を与えることができるのか実践できるキャンパス（技術による近未来社会のテーマへの付加価値創造）

（第1弾）無人店舗実証事業



無人店舗の実証を通じて、社会的課題の解決に資する研究やアイデアの実現に挑戦する

「con-tech」ってナニ？

営業開始

2019.6.4

店舗運営

九工大生協

名称

con-tech

利便性（convenience）に凝ったコンテナ（container）、それに顔認証やAIといった最先端の九工大（kyuzitech）の技術（technology）を付加していくことを目指し、「con-tech（コンテック）」と名付けました。※学内投資により決定

HOW TO USE?

支払い

生協の組合員証で決済



九工大生協のチャージ式プライベートカードでのみ決済可能です。

購入品決定

画像認識による商品識別



購入する商品をレジにのせると、AIがレジ上の商品を識別します。

店舗内への入店 & 退店

顔認証 or ICカード認証

カメラに顔を向けるか、学生証・職員証をかざすことでドアが開閉

顔認証のマスターデータには、学生証や職員証の写真を活用しており、許可いただいた方のデータ（約700名分）のみを登録しています。

（第2弾）ローカル5G実証試験

キャンパス内にローカル5G環境を構築し、学生・教員からのユースケースの募集や、九工大の研究開発への活用を目指す（現在検討中）



ローカル5G
エリア

I. 教育
II. 研究
III. 社会連携
IV. 管理運営

地域企業での取組み



福岡ひびき信用金庫と連携して、ひびしん創業支援ローンで、**本学が技術相談を実施するサービスを行い、企業等のニーズを広く集めるとともに技術相談件数を増加させた。**

地域企業の新事業展開等、事業開発を支援することを目的として、西日本シティ銀行と共催で「事業開発ビジネス講座」を開催し、2019年1月から3月にかけて計3回の講座を実施した。

NICTとの包括的な連携協定を締結

2018年12月1日に、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)と連携推進に関する協定を締結した。「ものづくり」の現場でのIoTやAIなどのICTの利活用が加速され、**地域産業の発展への貢献が期待**されています。

自治体との連携

北九州市との取組み

北九州市が開催する市内大学関係者勉強会に参加し、**市内大学関係者と市と下記について情報共有及び意見交換**を行った。

- 各大学が今後取り組みたい地域貢献活動
- 市内大学間で新たに連携したいこと
- 市が大学に期待する役割

北九州市が開催する産学官懇談会に参加し、**市内大学関係者、市及び北九州商工会議所と下記について意見交換**を行った。

- 地元就職促進に向けた取り組み、課題等

公益財団法人北九州市活性化協議会が実施する北九州地域産業人材育成フォーラムと連携し、定期的に開催される推進会議、企画部会に参加することで、**産学官の連携を強化するとともに、各種事業における実務上の課題について協議した。**

クラウドファンディングの実施



寄附金獲得による研究の活性化や学生の部活動への支援を目的として、2019年5月からこれまでに2件のクラウドファンディングを実施しています。

種別	プロジェクト名	実施期間	目標金額	資金使途
寄附型	九工大から宇宙へ！超小型人工衛星「ふたば」！！	【募集中！】 2019年 8月23日(金) ～11月21日(木)	100万円 ⇒ ネット ゴール200万 円に挑戦中	開発した人工衛星の打上げ費用
寄附型	九工大の挑戦！学生フォーミュラ日本大会での上位入賞を目指して	募集終了(成立)	50万円 ⇒ 100万円 超を獲得	フォーミュラ用軽量ホイールの購入費、試走会への遠征費

飯塚市ふるさと納税 大学応援メニューの追加

2019年10月1日から飯塚市ふるさと納税の応援メニューに「大学応援寄附金(九州工業大学情報工学部への応援寄附金)」の項目が設けられました。飯塚市と本学との包括連携協定に基づき、**大学支援及び産学官連携事業の更なる強化を目的として実施される**もので、飯塚市は寄附金から必要経費相当額を差し引いた額を「大学応援補助金」として本学に交付します。

本学における支援事業の概要

九州工業大学情報工学部と飯塚市の産学官連携推進等に関する取組

- 企業への学術指導、共同研究・受託研究や起業支援による産業育成
- 小・中学校におけるICT教育の支援、リカレント教育の促進
- 国際化推進に資する海外研究者の招聘・留学生の受入れなど

※2020年、北九州市ふるさと納税の応援メニューへの追加を協議中

北九州市の課題：人口減少・高齢化による労働力不足

を解決する

革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト

事業期間：2018年度～2027年度

事業費：約17億円(5年間) ※北九州市と国のマッチングファンド

構成員：北九州市、FAIS、(株)安川電機、九工大 他

令和元年度の取組み

《北九州市立大学との連携》

連携大学院(ロボットアントレプレナーコース)検討開始

《安川電機との連携(人事制度面)》

新しいクロスアポイントメント検討開始

《研究開発関連》 トップ人材招聘・シンポジウム開催



研究開発

連携

導入支援

安川電機
九工大

北九州市

ロボット
産業振興

人材育成
若者定着

地域企業の
生産性
革命実現

キラッと光る地方
大学



『九州から発信する新時代の産学連携』

- 2019年8月23日（金）@大手町サンケイプラザ
- 産業界、OBなど250名を超える参加者
- 第一部 記念フォーラム
 - ・ 大学紹介
 - ・ パネルディスカッション（産学連携が彩る共創環境）
 - ・ 最先端研究の紹介
- 第二部 感謝のつどい



麻生太郎財務大臣による来賓挨拶



尾家学長による大学紹介



パネルディスカッション



最先端研究の紹介



第2部 感謝の集い

21

積極的な広報活動の展開

多様な組織との連携を通じた広報活動を展開

● 学長記者懇談会の継続実施



2016年から、定期的に学長記者懇談会を開催。報道関係者への情報発信だけでなく相互の情報・意見交換を行い、メディア各社との連携を深めている。

● RKB毎日放送との連携協定

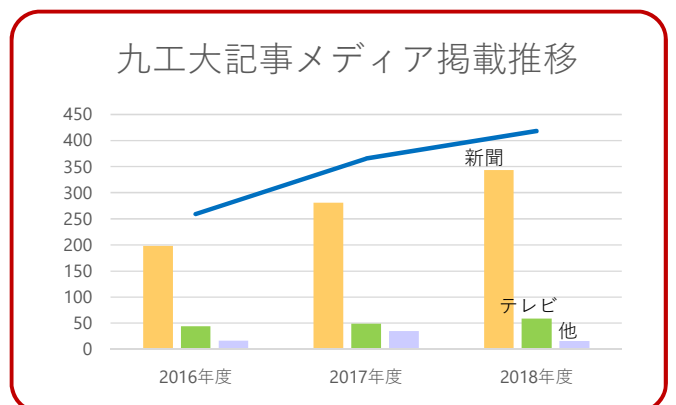


地方テレビ局のRKBと地域社会のための情報発信や人材育成などを目的に連携協定を締結。多方面での連携を検討。（RKB制作の番組『発掘ゼミ』で複数回取り上げられた。）

● 博多大丸（デパート）でのコラボイベント



2019年3月、10月と2度、福岡市天神の大丸でイベントを開催。サイエンスカフェや子供プログラミング教室など多くの観衆を集め、大好評のイベントとなった。



22

戦略的な広告展開 大学のブランディングのため、広告も「選択と集中」を図った



読売新聞 (2019.1.5 朝刊 ※九州・山口版)



日本経済新聞 (2019.7.26 朝刊 ※関東版)

23

KYUTECH LAB 九工大の研究をわかりやすく紹介

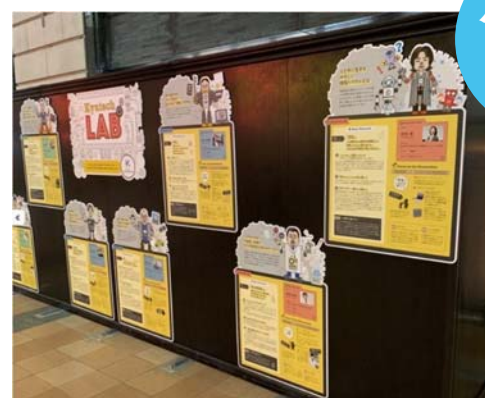
『WEB』『冊子』『パネル』とマルチに展開



WEB版 KYUTECH LAB



冊子版 KYUTECH LAB



パネル展示 (大丸福岡天神店でのイベント)

ごく一般の方々に対し、大学で行われている研究は敷居が高く、遠い世界の様に思われがち。
⇒ そうではなく、私たちの周りにも研究成果はたくさん応用されていて、大学での研究活動をもっと身近に感じ、共感を得ることを目的に企画。

24

I. 教育

II. 研究

III. 社会連携

IV. 管理運営

第2期 までに 達成済 の事項

- 役員会主導による人事制度導入（教員の人事権限等の重要事項を役員会へ移行済）
- 教授会の役割明確化（教学案件を主に審議するシステム：平成16年度から実施）
- 学長による部局長選任制度の再整備（業績評価導入）
- 学長補佐体制の強化 総括副学長設置（平成26年度実施）
- 技術職員の全学組織化（技術部の発足）
- 外部意見の取り入れ
 - ・経営協議会の学外委員の定員見直し（平成26年度実施）
 - ・産学連携教育審議会（産業界の人事担当者等からの意見を取り入れ、産業界に必要な人材像とその教育方法を審議）



ガバナンス・人事給与システム改革

第 3 期

- (1) 学長企画室新設 (平成28年度～)
IR室とも連携しながら、大学改革の企画立案を担当し、**学長のリーダーシップをサポート**
他機関との包括的な連携協定や大型外部資金の獲得、人事・マネジメント改革などを主導
- (2) 戦略的な教員人事を推進 (平成28年度～)
全部局長が参加する「人財活性化推進会議」を設置。**組織力を高めるための戦略的な教員配置**
平成29年度に2名、平成30年度に2名の**教員の部局間異動**を実施。
大学及び部局の戦略に基づく**教員採用計画の策定**
原則として新規採用する全ての准教授・助教にテュアトラックを適用。
- (3) 男女共同参画推進室を設置 (平成28年度～)
「ダイバーシティ研究開発環境実現イニシアティブ（特色型）」採択（平成29年度）
在宅勤務制度の導入（平成29年度実績5名）、**女性限定の教員公募**（3件）の実施
- (4) 「人事制度改革マラソン」開始 (平成29年度検討開始～平成31年度運用予定)
職員満足度調査（平成28年度）を実施し、**ES調査に基づく経営改善**の取組開始
事務職員の有志によるワークショップを定期開催し、成長意欲の促進、適正な人事考課、互いに認め合う環境づくりを検討
- (5) 新年俸制等人事給与とマネジメント改革検討開始 (平成30年度検討開始～平成31年度運用予定)
教育職員のモチベーション向上のため、**業績評価を取り入れた新しい年俸制**を検討
- (6) 技術職員の処遇改善 (平成29年度～)
全学組織化した、技術部の昇任・昇格制度や管理職手当などをはじめとする制度見直しを実施

学内の状況と、本学を取り巻く情勢に対する理解を深め、本学が今後も「かけがえのない大学」で在り続けるために、共に将来を展望するため、各教員とのフェイス・トゥ・フェイスでの対話を実施

■ 実施概要

日程	時間	対象者	会場
2019年8月19日 (月)	8:50 ~ 10:20	教養教育院 教授	本部棟1F TV会議室 (戸畑) 研究管理棟2F TV会議室 (飯塚)
	10:30 ~ 12:00	教養教育院 准教授・講師	
	13:00 ~ 14:30	工学研究院 教授	本部棟2F 会議室 (戸畑)
	14:40 ~ 16:10	工学研究院 准教授・講師 安全衛生推進室 講師	
	16:20 ~ 17:50	工学研究院 助教	
2019年8月21日 (水)	8:50 ~ 10:20	生命体工学研究科 准教授・助教	事務講義棟1F 中会議室 (若松)
	10:30 ~ 12:00	生命体工学研究科 教授	
2019年9月2日 (月)	13:00 ~ 14:30	情報工学研究院 教授	研究管理棟3F 第1セミナー室 (飯塚)
	14:40 ~ 16:10	情報工学研究院 准教授 マイクロ化総合技術センター 准教授	
	16:20 ~ 17:50	情報工学研究院 助教 マイクロ化総合技術センター 助教 学習教育センター 助教	

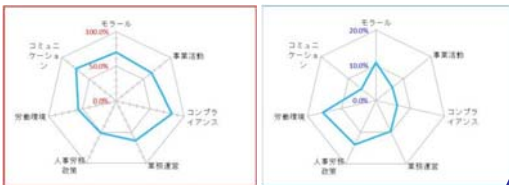
対話で得られた意見・課題を総括し、第4期中長期目標期間に向けて必要となるであろう取組み（施策）の検討を実施する

計 97 名
の教員が参加！

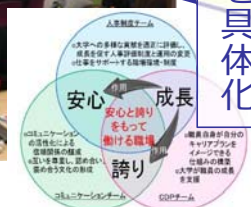
学長の思い

- 改革を継続していくための事務の組織力向上
- 全ての構成員が「安心と誇り」をもって働ける職場の実現

職員満足度調査



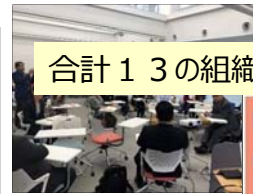
職員有志によるワークショップ



ワークショップの検討結果を踏まえ施策を具体化



SDGs



合計 13 の組織横断チームが活動

国際化支援

コミュニケーション施策



サンクスカード

褒め合う文化を醸成し、職員同士の理解を深める取組を実施



Kyutechgram



学報Paper制作

新しい人事評価制度

新しい職位別基準による評価が今年度から開始

職能評価



フィードバック研修

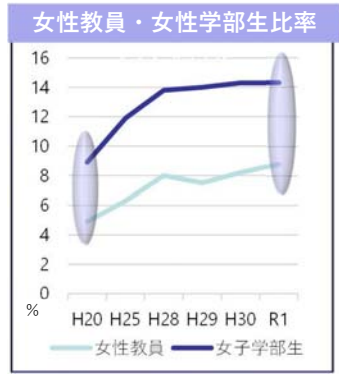
学内マーケティング



マラソン.com

人事制度改革マラソンの取組、職員の意識向上につながる情報を提供

女性教員比率 (8.8%) ・すでにKPI (8%) を達成!
女性限定公募 4件実施 (工学系の3部局で実施)
女性教員・女子学部生比率・・・いずれも上昇
 女性教員 8.8% ・すでにKPI達成 (女子学部生14.3%) (R1)



在宅勤務制度 (H28~) ・全国最多の利用者! 男性も
在宅勤務制度の利用者 (教育職員対象) ...全国最多
 利用者9人 (全国立大学中で最多の利用者)、男性2人 (R1)
他大学からの問合せ 急増 (九大、名大、北大、東京農工大、長岡技科大、佐賀大など)



文部科学省補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (特色型)」 選定中
 (H29-R1)
本年度 = 中間審査年・・・年度目標以上に進捗
「複合支援」→ 女性教員の「研究力向上」に効果
 (在宅勤務×支援研究員配置支援事業) で支援→科研費採択率1.27倍に (H29→R1)



学生・職員対象・「LGBT+講演会」「デートDV講演会」など
「LGBT+講演会」「デートDV講演会」「工学女子シンポジウム」
「夏期学童保育」「キャリアアップセミナー」 (女性事務・技術職員対象) など 実施
 「デートDV講演会」参加者160人、「工学女子シンポジウム」参加者90人 (R1)

受賞概要	受賞者等
令和元年度 地球温暖化防止活動環境大臣表彰 国際貢献部門	MSSC
平成30年度 地球温暖化防止活動環境大臣表 技術開発・製品化部門	次世代パワーエレクトロニクス研究センター
経済産業大臣表彰「第7回ものづくり日本大賞」優秀賞	工学研究院 物質工学研究系 恵良 秀則 教授 工学研究院 機械知能工学研究系 河部 徹 准教授
平成30年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰『若手科学者賞』	生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻 川原 知洋 准教授
宇宙開発利用大賞『外務大臣賞』	国際連合と連携した宇宙能力構築のための留学生事業
『World Robot Summit 2018』 Service Robot Category, Partner Robot Challenge, Real Space 部門 優勝 (経済産業大臣賞)	Hibikino-Musashi@Home

環境大臣表彰 (2年連続受賞)

Oil Palm Tree and Fresh Fruit Bunch

マレーシアのパームプランテーションの面積
約400万ha (マレーシアの農土:3500万ha)
油の収率: 3~5トン/(ha・年) 搾油工数約 400
1農家の面積:最低4ha

量産性の高い低コストパワー半導体を実現する
シリコンパワー半導体 (IGBT) 微細化スケールリング則

発電から消費まで、様々な分野で
電気エネルギーの高効率利用技術が普及

外務大臣賞



教育現場からの評価（高校の進路指導教諭が選ぶ大学〔国立大学編〕）

全国 国立大学ランキング

小規模だが評価できる大学	就職に力を入れている大学	面倒見が良い大学
1 位（前年度1位）	1 位（前年度2位）	2 位（前年度3位）

九州地区 国立大学ランキング

教育力が高い大学	グローバル教育に力を入れている大学	研究力が高い大学	入学後、生徒の満足度が高い大学	入学後、生徒を伸ばしてくれる大学	生徒に勤めたい大学
2 位	2 位 （前年度圏外）	2 位	2 位	2 位	2 位

（株）大学通信『大学探しランキングブック2020大学通信』より

有名企業400社への就職実績（大学通信による調査データより）

（2019年9月5日現在）

全国順位	400社実就職率 ※	卒業者	400社就職者数	大学院進学者数
8 位 （西日本 1 位）	36.4 %	1,574 人	371 人	555 人

※ 有名企業400社への就職者数 ÷ [卒業（修了）者数] - 大学院進学者数 × 100

世界大学ランキング



世界大学ランキング 2020

1001+ 位

（昨年度は801-1000位）

日本の大学で、**46位** / 110大学

（昨年度は 47位 / 103大学）

【分野別ランキング 2020】

Engineering and Technology分野

601 - 800 位

日本の大学で、**15位** / 76大学

（THE WORLD UNIVERSITY RANKINGSホームページより、本学独自集計）



Asia 大学ランキング 2019

203位

（昨年度175位）

日本の大学で、**31位** / 89大学

（昨年度は 32位 / 77大学）

スコア
特徴

どちらのランキングにおいても、Citation（論文の被引用数・率）の指標はこれまで本学で一番弱い項目となっておりましたが、近年、堅調にスコアは上昇しており、今回も高い伸びを示しています。

THE (Citations)			
2017	2018	2019	2020
14.3	18.2	23.1	31.0

QS (Citations per Paper)		
2017	2018	2019
-	-	24.4

今後の
対応

教育職員評価において、文献データベースScopusに掲載されている論文の被引用数を評価項目に追加しました。

CitationがELSEVIER社のデータを用いていることから、海外の論文誌等への投稿を増加させる取組により、ランキング向上につながると考えます。よって、国際共著論文数を増加させるために海外の研究機関との共同研究の取組を継続していきます。

また、QSランキングについては、海外からの交換留学生比率、海外へ留学する交換留学生比率の指標があるため、今後、中長期の学生派遣プログラム及び留学生受入プログラムの開発に向けて、検討を行っていく予定です。

業務執行状況の確認に係る意見について

学長の業務執行状況の確認については、

- ・ 令和元年 11 月 18 日開催の令和元年度第2回経営協議会の〔その他〕の
“(1)第3期の業務状況に係る報告について”の質疑応答
 - ・ 令和元年 11 月 18 日(月)以降に送付された「平成 30 年度に係る業務の実績
に関する評価結果」
- を踏まえ、各学長選考会議委員及び両監事から、下記のとおり意見提出があった。

【学長選考会議委員からの意見】

- 技術に堪能なる士君子の養成と教育の国際化を目指して GCE を定めてグローバルで創造的な技術者の育成に取り組み、研究の活性化、産官学・地域社会との連携の強化などの革新的な運営を積極的に推進しています。その結果、国際共著論文率、学生の海外派遣率、偏差値・志願倍率などに多大なる実績を残していることは、高く評価できます。

職員満足度調査を踏まえての自立的な人事制度への見直しや、在宅勤務制度を全国に先駆けて先進的に推進するなど、経営改善にも目に見える実績を残しています。

また、学長記者懇談会等の積極的な広報活動は、閉鎖的になりがちな学内活動をオープンにするとともに、本学の良い取り組みを地域に知ってもらい本学が世の中に貢献していることを理解してもらうことに寄与していると思います。

今後も組織的な運営に落とし込み、定着し継続できるようお願いします。
- 平成 30 年度の取り組みについては“教育・研究・社会連携・管理運営”においてバランスの取れた運営を実行していると判断します。

いずれの項目も目標を掲げてそれに向かって全体を強いリーダーシップでリードしています。特に産学連携については学長自ら積極的に活動し、活動が定着してきています。

今後も、さらなる飛躍を目指して学長としてリーダーシップを発揮することを期待します。
- 学長として、よくリーダーシップを発揮し、グローバル人材の育成、研究の活性化、産官学・地域社会との連携強化などに積極的な運営を行っていると確認した。

特に、開学の理念である「技術に堪能なる士君子の育成」の教育方針を「Global Competency for Engineer の育成」へと継承し、その結果、特色ある実践的なエンジニアが世の中へと巣立って行き、就職に強い九州工業大学の評価が定着している。

一方、卒業生からなる一般社団法人明専会との連携の下、第一線で活躍する明専会会員が講師になって実施している「明専塾」、「明専女子塾」、「明専スクール」などは、実践的な技術者育成に向けた生きた教育になっている。

事務職員・技術職員の満足度調査を行い、人事制度改革マラソンを開始し、自律的に活躍できる仕組みを作ったことはよいと判断する。

以上、教育、研究、社会連携、管理運営がきちんと進められていることを確認し、学長のリーダーシップを高く評価する。

- 社会的評価もますます高まっており大変喜ばしい。
継続して取り組んでいただきたい。
- 教育、研究の両面で国際化が進んでおり、その成果が出ている。また、管理運営面においても改革が順調に進んでいる。
以上より、業務執行状況は良好である。具体的には以下を高く評価する。
教育の国際化として、GCE 教育に精力的に取り組んでおり、学生の海外派遣率が全国で3位というのは高く評価できる。また志願倍率も上昇傾向にある。
研究に関しては、組織的連携を推進しており、国際連携及び国内での組織的連携も開始している。また、論文の国際共著率が世界平均を上回っており、研究の国際化が進んでいる点は高く評価できる。
管理運営面に関しては、新年俸制、人事給与マネジメント改革の検討を開始しており、教員との対話を行っている点でも高く評価できる。
- 国立大学法人等の「平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果」において、九州工業大学は、すべての項目が「順調」と評価されており、第3期中期計画の記載事項のすべてで「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められている。経営協議会において委員から入試の志願倍率増が高く評価されたことを含め、各種データの数値が平成30年度に改善されていることを勘案すると、学長の業務執行状況は極めて良好であると判断される。
- 学長の業務執行状況について、適切であると思います。
海外派遣学生が約700名と高い数を持続していると共に、海外研究者との共同研究も増加しており教育研究のグローバル化が推進していると思います。
学生創造学習支援プロジェクトにおいても、安川電機以外からの支援も数社から得ることができており、産業界から本学学生生活動が認められていると思います。
共同研究講座の設置数の増加や海外大学との組織的な国際共同研究の推進を行うことで、国内外での大学の評価が高まっていると思います。
地域との関わりも順調であり、技術相談の増加や地場企業との地域大学・地域産業創生交付金事業の開始による地域貢献など高く評価できると思います。
戸畑キャンパスの無人店舗やクラウドファンディングなど今後の発展を期待できる新しい取り組みを積極的に実施していることも評価できると思います。
- 「H30年度に係る業務の実績に関する評価」ではすべての項目が「順調」であり、高く評価できる。さらに30年度は今まで取り組んだ様々な改革による大学の変化が感じられる。
教育の項目では、学生の海外派遣が全国的に注目される。工科単科大学でこの派遣率は素晴らしいと思う。また多くの学生が地域外から受験しており、全国的な広がりを見せている。研究では、重点プロジェクトセンターや共同研究講座、国際連携の推進に大きな成果を上げている。社会連携では、契約未満の産学連携を掬い上げる技術相談の新しい

い仕組みがうまく機能していると感じる。またクラウドファンディングをいち早く取り入れたことも評価できる。全般的には、教育・研究・社会連携・管理運営に精力的に取り組んだ成果が見えてきており、今後もさらなる教育研究の質の向上が期待できる。

【監事からの意見】

- 平成30年度は、第3期中期目標・計画の3年目である。文部科学省の国立大学法人評価委員会による平成30年度評価において、「業務運営・財務内容等の状況」では、4項目の項目別評価のいずれも6段階評価の上から3番目の「順調」(中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)の評価である。「注目」事項としては、2項目が取り上げられている。また、全体評価においても、グローバル化への積極的対応として海外教育研究拠点 MSSC の活用等、連携の高度化による産学連携研究の活性化、国際共同研究の強化に関する取組が評価されている。

経営協議会で学長より報告された平成30年度の業務状況において、「教育」、「研究」、「社会連携」、「管理運営」の分野で多くの実質的な効果が得られていることが示された。

「教育」では、GCE 教育の進展、志願倍率の増加、就職率の向上。「研究」では、海外の大学との国際共同による連携、共同研究額の増加。「社会連携」では、地域企業との連携、北九州市や飯塚市との自治体連携等。「管理運営」では、戦略的人事の構築や人事給与制度の改革等。

本法人の平成30年度におけるこれらの学長の業務執行状況は、学長リーダーシップによる大学マネジメントがうまく機能していることを裏付けるものである。今後は、さらなる向上を目指し、例えば法人評価の4項目の項目別評価「順調」から一步ステップアップすることを目指すなど、九州工業大学のプレゼンスをさらに高める戦略を実践することを期待したい。

- 学長の業務遂行について、取り巻く環境が変化し、厳しい中で本大学の発展に尽力していると評価します。それも学長がリーダーシップを発揮できる体制が整ってきたからだと思います。学長のリーダーシップのもと、業務運営が達成に向けて順調に進められています。更に、産学連携の推進、内部では人事制度の見直しも活発に意見交換が勧められ順調に進んでいます。

しかしながら、財政面で更なる工夫が必要であると思われます。今後は、大学がどのような特色を出し、資金を集めていくべきか、大学の本当の経営力が試されるのではないかと思います。それゆえ、新たな収入を伴う事業創設にも取り組んでいただけたらと思います。保有資産(土地の有効活用)、寄付金等を原資とする余裕金の運用、などであろうと感じます。また、寄付金収入の拡大へ向けた取り組みにも力を入れていく必要があるかと思えます。そのためには、更に本学の活動内容を知っていただく機会やSNSなども上手く利用して応援者を増やすことにも取り組んでいただければと思います。

大きな課題となりますが、経営的視点も必要になってくるため、企業の観点から、少しでもお力になればと思います。

沢山の課題がありますが、今と変わらぬ学長の信念、また、リーダーシップをさらに発揮して頂き一つずつ解決されていくことを期待しております。